



## 「ゾウ」

みなさんもよく知るゾウについて紹介(しょうかい)します。ゾウは、陸(りく)にすむほ乳類(にゅうるい)の中でもっとも大きい動物(どうぶつ)です。

まず、ゾウの特徴(とくちょう)について説明(せつめい)します。ゾウのすがたで気づくのは、長い鼻(はな)ですね。ゾウは首が短(みじか)いために、立ったままでは口を地面(じめん)につけることができません。ひざをつけてしゃがむか、長い鼻(はな)を私たちの手のように器用(きよう)に使(つか)い、地面(じめん)にある食べ物や水などを口に運びます。この長い鼻(はな)は、私たち人間の上のくちびると鼻(はな)にあたるどころが発達(はったつ)したものです。この鼻(はな)の先にある指(ゆび)のような突起(とっき)は、ピーナツのような小さなものから、やわらかくてつかみにくいようなものまで器用(きよう)につかむことができるのです。鼻(はな)を使ってみずあびをすることもあります。また嗅覚(きゅうかく)もすぐれており、鼻(はな)を高く上げることで遠くから風(かぜ)ののってやってくるにおい(におい)をかぎとることもできます。また、ゾウの耳も特徴的(とくちょうてき)です。ゾウの耳は、とても大きくて人間の聞こえない音を聞く事ができたり、30~40km(キロメートル)で離(はな)れたところの音も聞く事ができるといわれています。

次に、ゾウの種類(しゅるい)について説明(せつめい)します。現在(げんざい)ゾウは、アフリカゾウとアジアゾウの2つの種類(しゅるい)がおり、細かく分けるとアフリカゾウの中にサバンナゾウとマルミミゾウが、アジアゾウの中にインドゾウ、セイロンゾウ、スマトラゾウとマレーゾウがいます。アフリカゾウの特徴(とくちょう)は耳が大きく三角形の形をしており、アジアゾウは耳が小さく四角形の形をしています。アジアゾウが生息(せいそく)するインドのあたりでは、ゾウは昔(むかし)から神聖(しんせい)な動物として考えられており、世界(せかい)を支(ささ)える存在(そんざい)であったり、ガネーシャというゾウの顔を持つ神様(かみさま)がたたえられていました。

さいごに、ゾウの生態(せいたい)についてです。ゾウは、メスとその子どもからなる群(む)れで生活し、大きな群(む)れではその数が60頭にもなるといわれています。オスはメスの群(む)れのまわりで生活し、年をとったオスはひとりで生活することもあります。ゾウのえさは、木の葉(は)、枝(えだ)、草、竹、果実(かじつ)などで、大人のゾウは一日に300kg(キログラム)必要(ひつよう)とされます。水も一日に70~90リットル必要(ひつよう)とされます。体が大きい分、それだけ栄養(えいよう)も必要(ひつよう)だということです。